

2016 年度 研究所事業報告書

研究所名	国際言語文化研究所
研究所長名	高橋秀寿

I. 研究成果の概要

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5 ヵ年)および 2016 年度重点プロジェクト申請調書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなうことができるだけわかりやすく記述してください。

国際言語文化研究所では 2016 年度も紀要『立命館国際言語文化研究』を 4 号刊行しており、特集と個別論文が多数掲載され、充実した内容となった。

恒例となっている秋の「連続講座」では「越境する民——変動する世界」を全体テーマとして、5 回にわたって「マイノリティを語る——イタリアとフランスのいま」、「フクシマ後の移動——政治思想史の観点から」、「難民・移民・アイデンティティ——ドイツの経験」、「戦後日本における越境者と出入国管理体制」をそれぞれサブテーマとして登壇者とフロアーの間で活発な議論が交わされた。

重点プログラムでは、今年度から四つのプログラムが統合して「文化の移動と紛争的インターフェース」が立ち上げられ、今年度は、共同研究としての実体化「各グループにおける研究活動の蓄積を大切な資産として継承、発展させつつ、相互交流による新たな研究課題の発掘、研究者の相互乗り入れ等の実体化を目指すこと」が目標に掲げられた。しかしこれまでのそれぞれの重点プログラムが有機的に連携することは困難で、これまでのプロジェクトの枠をうまく乗り越えることはできなかった。しかし個別のグループは 11 月に国際シンポジウム「海を渡るベースボール——民族・移民・国家のかかわり方」や 1 月には国際カンファレンス「不平等とカタストロフィ」が開催されるなど、これまで以上に活発に研究活動が行われた。

「バイリンガル INIRS 言語脳科学プロジェクト」ではバイリンガルの小中高大学生対象の通算 7 年目の縦断データの収集を終え、整理・下分析を完了させることができた。

「ヴァナキュラー文化の多面的研究」では「流体としての言葉、文化、地域」をテーマとして公開講演会を二回開催し、国際シンポジウムも催して多くの来場者を得て、その成果は研究所紀要にて公表した。

「ジェンダー研究会」は「クィア理論」、「性暴力」、「複合差別とアイデンティティ」を課題としてクィア・リーディング研究会と共催でワークショップを 3 回開催し、韓国の従軍慰安婦を取り上げた映画「鬼郷」(クィヒャン)上映会を企画・開催した。

「風景・空間の表象、記憶、歴史」ではエラスムス大学のジョス・デ・ムル教授による公演を開催し、さらにソウルでラウンドテーブルを企画して研究交流をおこなった。またニューヨーク市立大学のゲイル・レヴィン教授らを招いて国際カンファレンスを催すなど、盛んな国際交流を通して研究課題を達成することができた。

研究所の企画としては 7 月に「現代詩の翻訳をめぐるシンポジウムと朗読会」が開かれ、詩人の古増剛造氏や中保佐和子氏、フォレスト・ガンダー氏(ブラウン大学)、ジェフリー・アングルス(ウェスタンミシガン大学)らが招待された。また 3 月には「J. M. クッツェーのシリアスな笑い」と題して、デイヴィッド・アトウェル教授の講演会も開かれた。

以上のように今年度も国際言語文化研究所は盛んに研究会活動を行ったが、すべての重点プログラムにおいて若手研究者に研究成果の公表の機会を与え、研究交流を促す機会を設けてきた。その意味で若手研究者の育成にも尽力してきた。

II. 拠点構成員の一覧

本欄には、2017年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③学振特別研究員(PD・RPD)、④博士後期課程院生・一貫制博士課程3回生以上に在籍する院生

役割	氏名	所属	職位
研究所長・センター長	高橋 秀寿	文学部	教授
運営委員	有田 節子	言語教育情報研究科	教授
	井上 彰	先端総合学術研究科	准教授
	ウェルズ 恵子	文学部	教授
	小川 真和子	文学部	教授
	河原 典史	文学部	教授
	金 友子	国際関係学部	准教授
	坂下 史子	文学部	准教授
	佐藤 渉	法学部	教授
	田浦 秀幸	言語教育情報研究科	教授
	滝沢 直宏	言語教育情報研究科	教授
	土肥 秀行	文学部	准教授
	内藤 由直	文学部	准教授
	中川 成美	文学部	教授
	仲間 裕子	産業社会学部	教授
	西林 孝浩	文学部	教授
	西 成彦	先端総合学術研究科	教授
	南川 文里	国際関係学部	教授
	吉田 恭子	文学部	教授
	米山 裕	文学部	教授
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	千川 哲生	文学部	准教授
	Lachlan JACKSON	法学部	准教授
	崎山 政毅	文学部	教授
	ポール・デュムシエル	先端総合学術研究科	教授
	小川 さやか	先端総合学術研究科	准教授
	細谷 亨	経済学部	准教授
	デュニ・タヤンディエー	国際関係学部	准教授
	鳥木 圭太	文学部	助教
	平田 裕	言語教育情報研究科	教授
	津熊 良政	言語教育情報研究科	教授
	安保 寛尚	法学部	准教授
	岡本 広毅	文学部	准教授
	上野 千鶴子	先端総合学術研究科	特別招聘教授
	松本 克美	法務研究科	教授
	二宮 周平	法学部	教授
坂本 利子	産業社会学部	教授	

		丸山 里美	産業社会学部	准教授	
		飯田 未希	政策科学部	准教授	
		竹中 悠美	先端総合学術研究科	教授	
		加藤 政洋	文学部	教授	
		中本 真生子	国際関係学部	准教授	
学内の若手研究者	専門研究員・研究員	櫻井 悟史	衣笠総合研究機構	専門研究員	
	補助研究員・リサーチアシスタント				
	学振特別研究員 (PD・RPD)				
	大学院生		山口 真紀	先端総合学術研究科	一貫制 8 回生
			秋吉 大輔	文学研究科	博士後期課程 5 回生
			武田 悠希	文学研究科	博士後期課程 5 回生
			大野 藍梨	先端総合学術研究科	一貫制 7 回生
			安 孝淑	先端総合学術研究科	一貫制 7 回生
			安田 智博	先端総合学術研究科	一貫制 7 回生
			越智 朝芳	先端総合学術研究科	一貫制 6 回生
			梁 説 (ヤン・ソル)	先端総合学術研究科	一貫制 6 回生
			鄧 麗霞	文学研究科	後期課程 3 回生
			桐原 尚之	先端総合学術研究科	一貫制 5 回生
			柏尾 有祐	先端総合学術研究科	一貫制 5 回生
			八木 達祐	先端総合学術研究科	一貫制 4 回生
			栗山 雄佑	文学研究科	後期課程 1 回生
			佐々木 亮	先端総合学術研究科	一貫制 3 回生
			喬 婷	言語教育情報研究科	
			猪飼 悠記	言語教育情報研究科	
			ガラス ハビエラ	言語教育情報研究科	
			古谷やす子	文学研究科	後期課程 3 回生
			山崎 遼	文学研究科	後期課程 2 回生
			真鍋 悠	文学研究科	前期課程 2 回生
		早川 明郎	文学研究科	前期課程 1 回生	
	小泉 佑果	文学研究科	前期課程 1 回生		
	宮田 絵里	文学研究科	博士後期課程 1 回生		

	岩本 知恵	文学研究科	博士後期課程 1 回 生
	栗山 雄祐	文学研究科	博士後期課程 1 回 生
	高見澤 なごみ	先端総合研究科	一貫性博士課程
	絹川 恵梨花	社会学研究科	博士前期課程
	林 宜臻	社会学研究科	博士前期課程
	林 宜儒	社会学研究科	博士前期課程
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・ 博士前期課程院生等)	木下 昭	文学部	非常勤講師
	佐藤 量	文学部	非常勤講師
	池田 啓悟	文学部	非常勤講師
	禰美 智章	文学部	非常勤講師
	泉谷 瞬	文学部	非常勤講師
	海寶 康臣	言語教育センター	外国語嘱託講師
	岡澤 沙樹	文学研究科	研修生
	二村 洋輔	文学研究科	研修生
	堀江 有里	国際関係研究科	非常勤講師
	金 恵玉	経済学部ほか	非常勤講師
	池内 靖子	産業社会学部	非常勤講師
	山本 真紗子	文学部 先端総合学術研究科	非常勤講師 研究指導助手
	住田 翔子	産業社会学部 国際言語文化研究所	非常勤講師 客員研究員
客員協力研究員	徳永 悠	京都大学	助教
	友田 義行	信州大学	准教授
	孫 美幸	大阪大学	講師
	マルコ・ボア	先端総合研究科	日本学術振興会外 国人特別研究員
	宮下 和子	鹿屋体育大学 / 放送大学	名誉教授 / 非常勤 講師
	西山 淳子	和歌山大学	准教授
	加藤 昌弘	名城大学	助教
	姫岡 とし子		
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)	石田 智恵	早稲田大学	専任講師
	久野 量一	東京外国語大学	教授
	大辻 都	京都造形芸術大学	教授
	中村 隆之	大東文化大学	専任講師
	杉浦 清文	中京大学	専任講師
	朴 沙羅	神戸大学	講師

	佐久間 寛	東京外国語大学 AA 研	特任研究員
	寺尾 智史	宮崎大学	非常勤講師
	大澤 真幸	麗澤大学	客員教授
	後藤 玲子	一橋大学	教授
	長谷川 唯	日本学術振興会	特別研究員 (PD)
	村田 裕和	北海道教育大学旭川校	准教授
	井狩 幸男	大阪市立大学・文学部	教授
	山田 尚耀	関西学院大学大学院	院生
	中川原 理紗	関西学院大学大学院	院生
	関口 英里	同志社女子大学	教授
	湊 圭史	同志社女子大学	准教授
	田中 寛	大東文化大学	教授
	福島 祥一郎	東京電機大学	助教
	梁 仁實	岩手大学	准教授
	木村 朗子	津田塾大学国際関係学部	教授
	岡野 八代	同志社大学グローバル・スタディーズ研	教授
	秋林 こずえ	同志社大学・グローバル・スタディーズ研	教授
	岩川 ありさ	立教大学	非常勤講師
	黒岩 裕市	フェリス女学院大学	非常勤講師
	三木 順子	京都工芸繊維大学デザイン・建築学系	准教授
	仲間 絢	京都大学大学院人間・環境学研究科	博士後期課程
	平田 剛志	京都国立近代美術館	研究補佐員
	Jos de Mul	Erasmus University	教授 (今年度前期社会学研究科客員教授)
	番匠 健一	同志社大学	研究員
研究所・センター構成員 計 125 (うち学内の若手研究者 計 27 名)			

Ⅲ. 研究業績

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2017年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	河原典史編	カナダ日本人移民の子供たち：東宮殿下御渡欧記念・邦人児童写真帖	単著	2017年2月	三人社		総297頁
2	南川文理	マルチ・エスニック・ジャパニーズ：〇〇系日本人の	共著	2016年5月	明石書店	駒井洋監修・佐々木てる編	pp. 26-41

		変革力					
3	南川文里	Trans-Pacific Japanese American Studies: Conversations on Race and Racializations	共著	2016年	University of Hawaii Press	Takezawa, Yasuko and Gary Y. Okihiro, eds.	pp. 107-132
4	南川文里	「ヘイト」の時代のアメリカ史：人種・民族・国籍を考える	共著	2017年2月	彩流社	兼子歩・貴堂嘉之編	pp. 141-162
5	井上彰	世界正義の時代：格差削減をあきらめない	共著	2017年3月	吉田書店	マリー・デュル＝ベラ (林昌宏氏訳)	pp. 139-189
6	後藤玲子	「やらせ」の政治経済学	共著	2017年3月	ミネルヴァ書房	後藤玲子・玉井雅隆・宮脇昇編	pp. 66-85
7	寺尾智史	危機言語へのまなざし：中国における言語多様性と言語政策	共著	2016年9月	三元社	石剛編	pp. 153-171
8	中村隆之 訳	痕跡	単著	2016年12月	水声社	エドゥアール・グリッサン著	総255頁
9	立命館大学・国文学研究資料館「明治大正文化研究」プロジェクト編	近代文献調査研究論集 第二輯	共著	2017年3月	国文学研究資料館	国文学研究資料館研究成果報告書	総118頁
10	中村隆之 (訳)	エドゥアール・グリッサン『痕跡』		2016年12月	水声社		「訳者あとがき」247-255
11	ウェルズ 恵子	アメリカを歌で知る	単著	2016年3月	祥伝社新書		
12	田中寛	遠きにおいて	単著	2016年	私家版		
13	岡本広毅	英語学：現代英語をより深く知るために—世界共通語の諸相と未来—	共著	2016年4月	春風社		pp. 23-26, 27-30, 31-34
14	坂下史子	「ヘイト」の時代のアメリカ史—人種・民族・国籍を考える	共著	2017年	彩流社		pp. 27-48
15	黒岩裕市	『ゲイの可視化を読む—現代文学に描かれる〈性の多様性〉?』	単著	2016年10月	晃洋書房		
16	木村朗子	女子大で『源氏物語』を読む—古典を自由に読む方法	単著	2016年	青土社		
17	岩川あり さ	「クィア作家としての谷崎潤一郎」		2016年12月	『谷崎潤一郎読本』翰林書房	五味渕典嗣・日高佳紀編	pp.210-216
18	Yuko Nakama (仲間裕子)	THE PERIOD ROOMS Allestimenti storici tra arte, collezionismo e museologia	単著	2016年	Bologna University Press, Bologna	Sandra Costa, Dominique Poulot, Mercedes Volait	pp.77-84

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	河原典史	バンクーバーにおける幻の新渡戸庭園：太平洋を渡った石灯籠	単著	2016年5月	日本民族建築学会, 民族建築, 149号		pp. 31-39	無
2	河原典史	サケを運んだ薩摩人：カナダのサケ缶詰産業における日本人移民史	単著	2017年3月	立命館大学人文学会、立命館文学、650号		pp. 123-138	無
3	井上彰	Can Luck Egalitarianism Serve as a Basis for Distributive Justice? A Critique of Kok-Chor Tan's Institutional Luck	単著	2016年8月	Law and Philosophy, Vol. 35, Issue 4		pp. 391-414	有

		Egalitarianism.						
4	後藤玲子	A Coherent Goals-Rights System in the Light of Political Liberalism	単著	2016年9月	立命館言語文化研究、28巻1号		pp. 171-182	無
5	西成彦	日本語文学の拡散、収縮、離散		2016年4月	淡江日本論叢、第32輯		pp. 71-91	無
6	中村隆之	海原が きみの歌のなかに鳴りひびきつづけた……午前3時のアメリカの幻		2017年1月	ユリイカ、9巻1号		pp. 128-136	無
7	久野量一	反マッコンド文学:二十一世紀キューバにおける第三世界文学とダビー・トスカーナ『天啓を受けた勇者たち』		2017年3月	東京外国語大学総合文化研究所、総合文化研究、20号		pp. 48-57	無
8	久野量一	キューバ革命が生んだ新しい女性		2016年11月	すばる、2016年11月号		pp. 220-222	無
9	ウェルズ恵子	ヴァナキュラー文化としての「赤ずきん」:少女と暴力の物語	単著	2016年9月	『立命館言語文化研究』28巻1号		pp. 101-114	有
10	安保寛尚	「フェルナンド・オルティスの『タバコと砂糖のキューバ的対位法』をめぐる一考察(1)ーキューバ性とトランスカルチュレイションについてー」	単著	2016年12月	『立命館言語文化研究』28巻2号		pp.129-146	有
11	安保寛尚	カクテルとアヒアコーキューバ国民統合の隠喩とレトリックをめぐる一考察	単著	2017年2月	『立命館経営学』55巻5号		pp. 1-26	有
12	田中 寛	資料:戦時下における国語問題・海外日本語進出論ー朝日新聞 1937年~1945年を中心にー	単著	2017年3月	『大東文化大学紀要』(人文科学) 第55号		pp.109-128	有
13	田中 寛	終結、達成をあらわす複合動詞の一考察ー「トオス」、「ツクス」、「ハタス」を中心にー	単著	2017年3月	『語学教育研究論叢』第34号		pp.295-317	有
14	田中 寛	強制的意志をあらわす副詞の一考察ー「強いて」と「敢えて」とその周辺ー	単著	2017年3月	『外国語学会誌』第32号		pp.34-43	有
15	田中 寛	比較、対比をめぐる副詞(句)と発話意図ー「まして」「いわんや」「どころか」「とは裏腹に」などを例にー	単著	2017年3月	国際連語論学会編『高橋弥守彦先生退職記念論集』		pp.103-124	有
16	田中 寛	大東亜共栄圏下のタイにおける文化映画工作ー二つの国策文化映画「泰国の全貌」と「起ち上がる泰」ー	単著	2017年3月	『日タイ言語文化研究』第4号		pp.49-108	有
17	田中 寛	タイ語の重ね言葉と反復形式の用法に関する一考察	単著	2017年3月	『日タイ言語文化研究』第4号		pp.237-260	有
18	田中 寛	動詞の反復と強調の類型・補遺ー語彙的反復と構文的反復の観点からー	単著	2017年3月	『新世紀人文学論究』Vol. 1		pp.4-23	有
19	田中 寛	語りつぐ戦争にみる日本人の戦争記憶ー「被害」の中の「加害」意識ー	単著	2017年3月	『新世紀人文学論究』Vol. 1		pp.107-132	有
20	田中 寛	新・人文学の地平へ② わたしの言語研究・言語教育の生成期	単著	2017年3月	『GAYA』第15号		pp.106-115	有
21	関口英里	文化資源を活用した地域活性化の取り組み	単著	2016年11月	『レジャー・レクリエーション研究』第80号		pp.106-110	有
22	坂下史子	『苦悶する黒い身体』の系譜ーモハメド・アリを記憶する	単著	2017年3月	『立教アメリカン・スタディーズ』第39号		pp.163-180	有
23	坂下史子	アンダーグラウンドの底力ーヒップホップとアフリカ系アメリカ人文化	翻訳	2016年9月	『立命館言語文化研究』第28号	ジェームズ・ブラクストン・ピーターソン	pp.5-12	有

24	Nimura, Yosuke	The Influence of Agnes Keith's Land Below the Wind on the Japanese During WWII: Analysing the Works of Satomura Kinzo as an Example.	单著	2016年7月	<i>International Conference on Local Knowledge (ICLK) 2016.</i> 27-28 July 2016		pp.227-231	有
25	海寶康臣	GCIに基づく「そして」の談話内での機能の考察と文頭のAndとの対照	单著	2017年3月	JELS 34		pp.63-69	有
26	山崎 遼	Didactic Elements in the Traditional Ballad: Male-Female Relationships, Bereavement, and Symbiosis with Nature	单著	2017年1月	『立命館英米文学』第26号		pp. 34-51	有
27	山崎 遼	アバディーンシャーの歌い手たち: スコティッシュ・バラッドのコンテキスト, 構造, 意味	翻訳	2016年9月	『立命館言語文化研究』第28巻1号	トーマス・マケイン	pp. 37-56	有
28	中川成美	「日本文学とクイア理論—欲望としてのクイアリーディング」	单著	2016年12月	立命館大学国際言語文化研究所, 言語文化研究, 28巻2号		pp1-4.	無
29	姫岡とし子	「ドイツの歴史教育とホロコーストの記憶文化」	单著	2016年5月	日本学術協力財団, 学術の動向, 21巻5号		pp.48-53.	無
30	岡野八代	「国家権力による家族の包摂と排除——育鵬社「公民」教科書を読む」	单著	2017年3月	青土社, 現代思想, 45巻7号		pp.172-183	
31	岡野八代	「継続する第二波フェミニズム理論: リベラリズムとの対抗へ」	单著	2017年3月	同志社大学, 同志社アメリカ研究, 53号		pp.103-124	
32	松本克美	「従軍『慰安婦』被害に対する法的責任論 — 修復的正義の視点から」	单著	2017年	立命館大学, コリア研究 8号		pp.1-12	有
33	黒岩裕市	「脱政治化という〈性の政治〉——村上春樹「偶然の旅人」を読む」	单著	2016年12月	立命館大学国際言語文化研究所, 言語文化研究, 28巻2号		pp. 61-69	無
34	木村朗子	「フクシマからヒロシマを問い直す」	单著	2016年	ひろしま女性学研究所, 被爆70年ジェンダー・フォーラム in 広島「全記録」—ヒロシマという視座の可能性をひらく		pp.194-208	無
35	泉谷瞬	「分断された「公私」における暴力の構造——山本文緒と絲山秋子の作品をめぐって——」	单著	2016年8月	日本社会文学会, 社会文学, 44号		pp.135-148	有
36	泉谷瞬	「親族関係という「蜘蛛の巣」——金原ひとみ作品における結婚問題を中心に——」	单著	2016年9月	韓国外国語大学校日本研究所, 日本研究, 69号		pp.83-107	有
37	泉谷瞬	「接触と流血の諸相——姫野カオルコ『受難』と映像表現の身体性——」	单著	2016年12月	立命館大学国際言語文化研究所, 言語文化研究, 28巻2号		pp.81-92	無
38	泉谷瞬	「越境の産物に触れること——茅野裕城子「韓素音の月」論——」	单著	2017年3月	昭和文学会, 昭和文学研究, 74集		pp.143-156	有
39	Yuko Nakama (仲間裕子)	The Aesthetics of Nature in Japanese Art in the Concept of 'furyu'	单著	2016年	estetica, studi e ricerche	無	pp.269-283	無
40	Yumi Kim TAKENAKA(竹中悠美)	Historic Landscapes of Two Spaces for the Steichen Collections in Luxembourg	单著	2017年3月	立命館大学国際言語文化研究所, 『立命館言語文化研究』, 28巻4号	無	pp.51-58	無
41	竹中悠美	芸術の名においてジェノサイドを見ること — S-21写真に向かうド・デュヴの視点—	单著	2017年3月	大阪大学美学研究室, 『a+a 美学研究』 Vol.10	無	pp.38-53.	無

42	三木順子	素描と身振り ―形象の「動力因」を求めて	単著	2017年3月	形象論研究会、『形象』Vol.2	無	pp.72-91	無
43	三木順子	新しいミュージアムのかたち ―工場・制作室・研究所	単著	2017年3月	大阪大学美学研究室、『a+a 美学研究』Vol.11	無	pp.164-177	無
44	山本真紗子	伝統産業における分業の功罪―立命館大学京友禅着物プロジェクトを通して―	単著	2016年7月	意匠学会、『デザイン理論』68	無	pp. 35-48	有
45	山本真紗子	An Artist Colony in Kinugasa: "Modernization" of Painters' Ways of Living	単著	2017年3月	立命館大学国際言語文化研究所、『立命館言語文化研究』28巻4号	無	pp.97-105	無
46	Shoko Sumida (住田翔子)	Discovery of the Islandscape: The Reception of Paul Gauguin by Japanese Painters in the 1910s	単著	2017年3月	立命館大学国際言語文化研究所、『立命館言語文化研究』28巻4号	無	pp.75-84	無
47	Shoko Sumida (住田翔子)	Landscape Documentation: A Study on Sharing of "Personal" Landscapes within Communities, Art Documentation Studies	共著	2017年3月	アート・ドキュメンテーション学会、『アート・ドキュメンテーション研究』Vol.24	Tuyoshi Tamura (田村剛)	pp.3-14	有

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	石田智恵	「失踪」と「死」のあいだ：アルゼンチンにおける「失踪者」親族の語りから	2016年5月	日本文化人類学会第50回研究大会、南山大学名古屋キャンパス	
2	石田智恵	アルゼンチン社会と在日日系コミュニティにおける「ハボネス」のイメージ	2016年6月	日本ラテンアメリカ学会第37回定期学会、京都外国語大学	
3	石田智恵	Contra la memoria nacional: voces por los desaparecidos japoneses	2016年6月	2016 UTokyo LAINAC International Conference、東京大学駒場キャンパス	
4	石田智恵	「失踪」から「死」への書き換え？：アルゼンチン司法人類学チームの活動	2016年7月	慶應義塾大学人類学研究会・見た哲学会、慶應義塾大学三田キャンパス	
5	石田智恵	Movimiento revolucionario entre los descendientes de japoneses en Argentina	2017年3月	Grupo de Estudios del Este Asiatico en el Instituto de Investigaciones Gino Germani、ブエノスアイレス	
6	佐藤量	「満洲の記憶」とオーラルヒストリーを問うということ	2016年9月	日本オーラルヒストリー学会第14回大会、一橋大学	
7	河原典史	第二次世界大戦以前のサケ缶詰産業における日本人サケ運搬者：鹿児島県出身者の資料から	2016年10月	地域漁業学会第58回大会、別府豊泉荘	
8	河原典史	なぜ台湾に渡ったのか：立命館大学野球部の海外遠征	2016年11月	言文研国際シンポジウム「海を渡るベースボール：民族・移民・国家のかかわりから」、立命館大学	
9	河原典史	カナダの子供たち：『東宮殿下御渡御記念写真帖』の発刊とその資料的検討	2016年12月	日本移民学会冬季研究会、東京学芸大学	
10	河原典史	植民地期朝鮮における缶詰産業の展開：濟州島から羅州へ	2016年12月	2016統一人文世界フォーラム「東アジアの記憶：痛みと連帯と共通の歴史」、立命館大学	
11	井上彰	運の平等論をめぐる攻防―VS 社会関係に基づく平等論の地平	2016年10月	日本倫理学会第67回大会（於早稲田大学）	
12	後藤玲子	Economic Philosophy of Amartya Sen – Social choice as public reasoning and capability approach	2017年3月	International Workshop 2017 “Economic thought of Cambridge, Oxford, LSE and the Transformation of the Welfare State”	

13	西成彦	Incompatibility and Authenticity of Testimonies: An Analysis of Akutagawa Ryunosuke's In a Bamboo Grove	2016年4月	The 3rd International Conference of Semiosis Research Center "Narrativity: Transmedia, Experience, Mediation", 韓國外國語大學校 (ソウル市)	
14	西成彦	Ainu and Taiwan Aborigines in Japanese Literature in 20th Century	2016年6月	AAS in Asia, Kyoto 2016、同志社大学 今出川キャンパス	
15	寺尾智史	Intra-globalism of Wenzhou People by the Wenzhouese: Present, Future and the Lessons for East Asian People	2016年11月	第6届世界温州人研究国際学術検討会 (The 6th Wenzhouese Diaspora Symposium), 温州大学 (中国浙江省)	
16	久野量一	キューバ人の英語創作と翻訳	2017年3月	世界文学・語圏横断ネットワーク第6回研究集会、東京外国語大学	
17	内田明	近代日本の活字サイズ：神話的・「伝統的」・歴史的	2016年12月	立命館明治大正文化研究会、主催：国文学研究資料館・立命館明治大正文化研究会・トラベルライティング研究会 共催、立命館大学	
18	中川成美	Images of the 3/11 Nuclear Disaster in Recent Works by Japanese Women Writers ,From Trinity to Fukushima and Beyond : Rethinking Nuclear Histories and the Global Nuclear Imaginary	2017年3月	De Trinity a Fukushima et au dela: Nouvelles approches de l' histoire et de l' imaginaire du nucleaire, Motreal University conference	
19	中川成美	Communism and Sexuality: Queer Desire in Japanese Proletarian Literature	2017年3月	Association of Asian Studies, Toronto	
20	Hideyuki Taura	'An fNIRS Case Study Tracking L2 Proficiency Development'	2016.10.13-16	fNIRS 2016 (The society for functional Near Infrared Spectroscopy 2016 Biennial meeting), Paris	Amanda Taura
21	Hideyuki Taura	'Japanese-English bilingual's narrative development compared to L1 English monolingual's: A case study' as a convener of the colloquium 'The development of the socially non-dominant language: Bilingual narrative analysis from multiple perspectives'	2016.9.9-11	2016 Pacific Second Language Research Forum (PacSLRF), 中央大学	
22	Hideyuki Taura	"Two Differing Spotlights on Bilingual Attrition Research - Brain-Imaging and Linguistic Data Analysis"	2016.6.3-5	JALT CALL & BRAIN 2016, 玉川大学	喬婷
23	Hideyuki Taura	"Research Results at Osaka International School" "Longitudinal Brain-Imaging Study".	2016.10.6	関西学院大阪インターナショナルスクール招待講演	
24	田浦秀幸	「バイリンガルの言語接触開始年齢と脳活様態：ブレインイメージング手法による一考察」	2016.11.2	ニューサウスウェールズ大学人文学部招待講演(UNSW, Sydney)	
25	田浦秀幸	「バイリンガル脳とバイリンガル子育て」(保護者向け	2017.2.25	シドニー日本語土曜日学校招待講演	

		講演会)			
26	田浦秀幸	「継承語・バイリンガル教育」(教員向け講演会)	2017.2.25	シドニー日本語土曜日学校招待講演	
27	Hideyuki Taura	'Developmental Narrative Ability in a Bilingual L1' & 'L2 Narrative Development and Brain Connectivity' Research	2017.3.16	Seminar at University of Technology, Sydney	
28	田浦秀幸	「シドニーでのバイカルチャー・バイリンガル教育と子育て」	2017.3.19	国際交流基金・New South Wales 大学共催「日本語教育シンポジウム」での基調講演(シドニー国際交流基金)	
29	安保寛尚	ホセ・マルティの詩における色彩表現について—青を中心に—	2016年6月4日	日本ラテンアメリカ学会第37回定期大会	
30	安保寛尚	世界文学と AALA (アジア・アフリカ・ラテンアメリカ) プロジェクト	2017年1月7日	ラテンアメリカ研究東アジアネットワーク・ワークショップ	
31	田中 寛	比較、対比をめぐる副詞(句)と発話意図	2017年1月31日	国際連語論学会、大東文化会館	
32	田中 寛	アウシュヴィッツ・ビルケナウからの報告—負の遺産から何を学ぶか	2017年3月19日	ABC企画委員会、中野区産業会館ホール	
33	関口英里	産業・文化・学びのコラボレーション —多分野連携プロジェクトによる伝統文化への貢献	2016年5月	日本比較文化学会 38回全国大会	
34	関口英里	地元振興をめざしたミッション実行学習の取り組み—コラボレーションによる仕掛けづくりの可能性	2016年9月	日本都市社会学会 34回全国大会	
35	関口英里	子供達を中心とした交流イベントのプロデュース	2016年11月	日本レジャー・レクリエーション学会 46回全国大会	
36	岡本広毅	カズオ・イングロの中世アーサー王物語—The Buried Giant における Sir Gawain and the Green Knight の影響	2016年12月	日本中世英語英文学会第32回全国大会	
37	Nimura, Yosuke.	<i>Revisiting "Revisiting 'Engmalchin': Exploring the Attempt of Pioneering Malayan Poets in the 1950s-60s.</i>	2016年6月25日	38th National Conference of the Japanese Association for Asian Englishes. Chukyo University.	
38	Nimura, Yosuke.	<i>The Position of Translated Literature in Showa Period</i>	2016年9月28-29日	4th International Conference on Linguistics, Literature & Culture. Eastin Hotel Penang.	
39	Nimura, Yosuke.	<i>The Influence of Agnes Keith's Land Below the Wind on the Japanese During WWII: Analysing the Works of Satomura Kinzo as an Example.</i>	2016年7月27-28日	6th International Conference on Local Knowledge. St Giles Wembly Penang	
40	佐藤渉	オーストラリア文学に見るフロンティア・ヴァイオレンス	2017年3月6日	ヴァナキュラー文化研究会、立命館大学	
41	宮下和子	原爆投下71年、オバマ米大統領の広島演説を読み解く	2016年10月22日	日本コミュニケーション学会九州支部第23回大会、熊本大学	
42	海賓康臣	GCIに基づく「そして」の談話内での機能の考察と文頭のAndとの対照	2016年11月	日本英語学会、金沢大学(角間キャンパス)	
43	海賓康臣	「そして」と文頭のAndが談話内で果たす機能—	2016年11月	立命館大学言語学ワークショップ、立命館大学(衣笠キャンパス)	

		般化された会話の推意に基づく考察一			
44	中川成美	Images of the 3/11 Nuclear Disaster in Recent Works by Japanese Women Writers ,From Trinity to Fukushima and Beyond : Rethinking Nuclear Histories and the Global Nuclear Imaginary	2017年3月	De Trinity à Fukushima et au delà : Nouvelles approches de l'histoire et de l'imaginaire du nucléaire, Motreal University conference	
45	中川成美	Communism and Sexuality:Queer Desire in Japanese Proletarian Literature	2017年3月	AAS Toronto	
46	姫岡とし子	The Women's Suffrage Movement and Japanese Modernization in the East Asian Context	2016年6月	"Post-Colonial Feminisms: Perspectives from Egypt, India, and Japan", Zurich	
47	姫岡とし子	Struggle and Difficulties of Women's Vote from Comparative Perspective	2016年6月	Internationale Tagung, 50 Jahre Frauenwahlrecht, Basel-Stadt	
48	姫岡とし子	ドイツにおける「記憶」と戦時性暴力	2016年12月	ジェンダー法学会公開シンポジウム「戦時性暴力と法—慰安婦問題と戦後補償」,立命館大学	
49	岡野八代	L'Histoire des trois Adolf by O. Tezuka and the Ambiguous Social Significance of Mangas in Japan	2017年1月	Rencontre, Les Mangakas Japonais et L'Histoire de la Shoah , Memorial de la Shoah	
50	岡野八代	Lutter contre les violence sexuelle en temps de guerre: Reflexions du problème des 《femmes de reconfort》 de l' arumee imperiale du Japon	2017年3月	Colloque international , LEGS (Laboratoire d'etudes de genre et de sexualite)	
51	松本克美	民事消滅時効への被害者学的アプローチ — 児童期の性的虐待被害の回復を阻害しない時効論の構築のために	2016年6月	日本被害者学会 27 回学術大会,東京・明治大学	
52	松本克美	児童期の性的虐待に対する損害賠償と時効	2016年9月	児童期性虐待・性犯罪被害者支援ワークショップ,韓国性暴力相談所・ソウル市	
53	岩川ありさ	マンガから読み解く女（ひと）と男（ひと）・社会の変化	2016年6月	やまなし男（ひと）と女（ひと）とのフォーラム,山梨県甲府市総合市民会館	
54	黒岩裕市	差異とつながりと一九九〇年代の「クエア」	2016年11月	日本近代文学会 11 月例会, 成蹊大学	
55	栗山雄祐	目取真俊「面影と連れて(うむかじとうちりてい)論—沖繩という枠をはずれていくこと	2016年10月	日本近代文学会関西支部秋季大会, 甲南女子大学	
56	Yuko Nakama (仲間裕子)	Environmental Space of Japanese Landscape Painting: Gaze, Senses, and Atmosphere	2016年7月28日	20th International Conference of Aesthetics, Seoul University	無
57	仲間裕子	ロマン主義的アイロニーの風景画—風景は風景を超える?—	2016年11月5日	第 3185 回立命館大学土曜講座「美術のたくらみ—イメージの越境と接触—」	無
58	仲間裕子	C.D.フリードリヒ—ロマン主義的風景と文学	2017年3月18日	立命館大学国際言語文化研究所重点課題研究プロジェクト 国際カンファレンス「風景と文学、文学と風景」立命館大学図書館カンファレンスルーム	無

59	竹中悠美	死者へのまなざしー写真論における倫理と民俗学・宗教学における用いの問題ー	2016年6月11日	立命館大学平和ミュージアム国際ワークショップ 立命館大学国際平和ミュージアム講義室	無
60	竹中悠美	「写真イメージのグローバル化における「世界」の表象～「人間家族」展のワールドツアー～」	2016年11月12日	第3185回立命館大学土曜講座「美術のたくらみーイメージの越境と接触ー」	
61	竹中悠美	〈ザ・ファミリー・オブ・マン〉展の再検証における原爆表象の問題	2016年11月18日	同志社大学人文科学研究所 第16研究12月例会 同志社大学今出川キャンパス	無
62	竹中悠美	E・ホッパーとW・エヴァンズの風景における建物	2017年2月3日	立命館大学国際言語文化研究所重点研究プログラム「風景・空間の表象、記憶、歴史」研究例会、立命館大学衣笠キャンパス	無
63	三木順子	不可視の都市風景ーイタロ・カルヴィーノと村上春樹における「場」のイメージ化	2017年3月18日	立命館大学国際言語文化研究所重点課題研究プロジェクト 国際カンファレンス「風景と文学、文学と風景」立命館大学図書館カンファレンスルーム	無
64	山本真紗子	「京友禅の生産流通構造：立命館大学京友禅プロジェクトの調査から」	2016年6月5日	研究ワークショップ「20世紀日本ファッション産業の仲介者たち」（主催：「糸・布・衣循環史研究会」（科研費補助金基盤B研究課題「糸・布・衣の廉価化の世界史」、立命館大学アート・リサーチセンター文部科学省 共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」研究課題「デジタル・アーカイブ手法を用いた近代染織資料の整理と活用」、政治経済学・経済史学会「糸・布・衣の循環史」フォーラム）、立命館大学アート・リサーチセンター	無
65	山本真紗子	「工芸を世界に発信するーグーグル・カルチュラル・インスティテュートを例に」（パネル発表）	2016年7月30日・31日	第58回意匠学会大会、京都精華大学	無
66	Masako Yamamoto Maezaki (山本真紗子)	Innovative Strategies in Dealing Japanese Art: Ikeda Seisuke, Yamanaka & Co. and their Overseas Branches (1870s-1930s)	2016年10月15日	International Symposium "All the Beauty of the World The Western Market for non-European Artefacts (18th-20th century)" Bauakademie, Berlin, Germany	無
67	山本真紗子	「立命館大学型友禅図案・型紙における修復作業の実践と課題」	2016年10月30日	国際ワークショップ「学術資料としての『型紙』ー資料の共有化と活用に向けて」、立命館大学アート・リサーチセンター	無

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	言文研国際シンポジウム「海を渡るベースボール：民族・移民・国家のかかわりから」	衣笠キャンパス	2016年11月	60名	科学研究費 基盤研究A「環太平洋における在外日本人の移動と生業」（代表者：米山裕）
2	第1回環カリブ文化研究会	末川記念会館	2016年7月	10名	
3	言文研国際コンファレンス「不平等とカタストロフィ」	衣笠キャンパス	2017年1月	20名	科学研究費 基盤研究C「カタストロフィの分配的正義論」（代表者：井上彰） 立命館大学大学院先端総合学術研究科
3	『引揚げ文学論序説』を受け止める	衣笠キャンパス	2017年1月	20名	
4	第2回環カリブ文化研究会	末川記念会館	2017年3月	10名	
5	スコットランド、外からの目線と内からの声	衣笠キャンパス	2016年7月	10名	
6	アーサー王伝説・アレクサンドロス伝説と中世ヨーロッパにおける世界観	衣笠キャンパス	2016年12月	36名	立命館大学大学院文学研究科・英語圏文化専修

7	シンポジウム アジアにおける英語授業開講	衣笠キャンパス	2017年2月	28名	JSPS 科研費・基盤研究(C) (研究課題番号: 16K02863)
8	歴史と表象 文学・映画に描かれたオーストラリア先住民	衣笠キャンパス	2017年3月	14名	
9	Mary Poppins から教育を考える	衣笠キャンパス	2016年9月	7名	
10	A Midsummer Night's Dream における魔法をめぐる	衣笠キャンパス	2017年3月	36名	
11	映画「鬼郷」(クイヒヤン) 上映会	衣笠キャンパス	2017年3月	30名	
12	講演「認知的空間、グローバルブレイン、ハイブマインドー情報コミュニケーション・テクノロジーの進化論的解釈」(ジョス・デ・ムル氏、エラスムス大学)	立命館大学アートン・テクノロジーの進化論的解釈(ジョス・デ・ムル氏、エラスムス大学)	2016年7月22日	20名	立命館大学産業社会学会
13	国際カンファレンス「風景と文学、文学と風景」	立命館大学図書館カンファレンスルーム	2017年3月	37名	
14	定期研究会(計10回)	立命館大学学術館	5月17日、6月8日、6月22日、9月30日、10月21日、11月18日、12月9日、1月13日、1月20日、2月3日	各研究会8~10名	

5. その他研究活動(報道発表や講演会等)				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	西成彦	「元日本兵の帰還」(基調講演)	台湾・文藻外語大学(高雄市)	2016年5月21日
2	中村隆之	「エドゥアール・グリッサンの〈全-世界〉について」(講演)	東京大学本郷キャンパス	2016年6月27日
3	ウェルズ 恵子	ゴスペルソングとブルース 歌詞研究の立場から	同志社大学アメリカ研究所 春季公開講演会	
4	ウェルズ 恵子	マイケル・ジャクソンと黒人文化のルーツ:多文化理解への道筋を探る	国際理解教育研究会講演会	
5	田中 寛	あいまいな、日中の私	埼玉県日本中国友好協会国交正常化45周年記念講演、さいたま文化会館、2017年3月5日	
6	岡本広毅	“dark phantoms in the wind” —J.R.R. トールキンの研究業績に見る〈フィロロジ—〉と〈文学研究〉の諸相	立教大学文学部文学科英米文学専修主催 公開講演会、2016年12月	
7	竹中悠美	講演	第3185回立命館土曜講座	2016年11月12日
8	山本真紗子	「花かんざし 金竹堂」「つげ 櫛 十三や」	田中圭子『日本髪大全』誠文堂新光社、2016年5月、pp.36~39・pp.172~175	2015年~2016年5月
9	山本真紗子	「きものの色—変化する「伝統」と美」	第32回せいらけん市民講座 脳の不思議とサイエンス、2016年07月23日、岡崎げんき館	2016年07月
10	山本真紗子	「丹後ちりめん」「京扇子」「京団扇」「紀州筆筒」「紀州束子」「伏見人形」	Google Arts & Culture 「Made in Japan:日本の匠」 (https://www.google.com/culturalinstitute/beta/project/made-in-japan?hl=ja)	2016年8月~2017年3月
11	平田剛志	「パランプセストの風景」	あまらぶアートラボ A-Lab archive vol.6 Exhibition Vol.5 ヤマガミユキヒロ 「location-hunting」(尼崎市 都市魅力創造発信課)	2017年3月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	仲間 絢	京都大学	たちばな賞優秀女性研究者奨励賞		2017年3月3日

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	西成彦	「比較植民地文学研究の新展開——「語圏」概念の有効性の検証」	基盤研究(C)	2015年4月	2018年3月	研究代表者
2	久野量一	「宗主国の交代と植民地——20世紀スペイン語圏カリブ地域文学における共同体意識の研究」	基盤研究(C)	2014年4月	2019年3月	研究代表者
3	中村隆之	「20世紀フランス語圏カリブ海文芸誌の調査研究」	若手研究(B)	2015年4月	2018年3月	研究代表者
4	田浦秀幸	表象・アルファベット(日英)バイリンガルの脳活動様態の解明 fNIRS 研究	基盤研究(B)	2013年4月	2017年3月	代表
5	田浦秀幸	日英バイリンガル園児のメタ言語能力発達段階解明 fNIRS 研究	挑戦的萌芽研究	2016年4月	2019年3月	代表
6	田浦秀幸	幼児期の二言語使用が認知と脳にもたらす影響の解明	基盤研究(C)	2015年4月	2019年3月	分担
7	田浦秀幸	早期日英バイリンガル2人からの17年間縦断データ分析研究	基盤研究(C)	2014年4月	2018年3月	分担
8	田浦秀幸	上海地区の小中高の英語教育現状と新人英語教員の研修の現地調査 - 日本への提言	基盤研究(C)	2014年4月	2018年3月	分担
9	ウェルズ恵子	アメリカにおける都市移民の口承文化：1880-1930年代の南欧東欧移民を中心に	基盤研究(C)	2014年4月	2017年3月	代表
10	西山淳子	英語の完了相と時の副詞句の情報構造に関する研究	基盤研究(C)	2014年4月	2016年3月	代表
11	坂下史子	アメリカの人種暴力の歴史にみる記憶の政治学—エメット・ティル事件を例に	基盤研究(C)	2016年4月	2018年3月	代表
12	佐藤渉	現代オーストラリア小説から読み解く先住民とヨーロッパ人の関係性	基盤研究(C)	2017年4月	2019年3月	代表
13	姫岡とし子	近代ドイツのナショナリズムと女性の政治化—植民地問題を中心として	基盤研究(C)	2014年4月	2017年3月	代表
14	岡野八代	ケアの倫理の民主主義的展開—フランスにおけるケアの倫理受容研究を通じて	基盤研究(B)	2015年4月	2019年3月	代表
15	岡野八代	身体フェミニズム理論の構築—性暴力批判と女性の具体的なエンパワメントに向けて	挑戦的萌芽研究	2014年4月	2017年3月	代表
16	三木順子	「ホモ・ピクトル(描く人)の倫理と冒険—イメージ批判に基づく人間学的美学の構想」	基盤研究(C)	2015年4月	2018年3月	代表
17	山本真紗子	「19世紀末から20世紀初頭の欧米の「日本美術」愛好を支えたネットワーク」	若手研究(B)	2016年3月	2019年3月	代表
18	山本真紗子	「近代京都の美術・工芸に関する総合的研究—制作・流通・鑑賞の視点から—」	基盤研究(B)	2015年4月	2018年3月	分担
19	仲間裕子	ドイツ・モダニズムの黎明期—作品、理論、パトロンの美学・歴史研究	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	代表
20	竹中悠美	中断された生の残像：死者の写真展示における美学と倫理の問題	基盤研究(C)	2017年4月	2022年3月	代表

8. 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	山崎 遼	スコティッシュ・トラベラーの口頭伝承研究：スタンリー・ロバートソンの伝承歌・物語レパートリー	平和中島財団(公益財団法人)2016年度 日本人留学生奨学生	2014年5月	2015年3月	代表
2	山本真紗子	「デジタル・アーカイブ手法を用いた近代染織資料の整理と活用」	立命館大学日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点・共同研究	2013年6月	2017年3月	分担

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
該当無し								